

社会医学実習 3 : 中毒・環境因子

Practice of Poisoning and Environmental Health

実習責任者：予防医学 教授 高田 礼子

1. 実習概要・学習内容

本実習では、「中毒・環境因子」シリーズ講義で取り上げた物理的因子・化学的因子のうち、医師、とくに産業医として経験することが多い環境要因について、その特性と作業環境の評価法を学習する。そして、生物学的モニタリングについて、ばく露評価ならびに健康リスク評価における意義と測定法を理解する。さらに、有害環境要因の影響を回避するための呼吸用保護具について、適切な選択と使用法を習得する。また、食中毒に関するケーススタディを行い、環境要因による健康危機管理の手法を理解する。

これらの実習を通して、環境要因と生体の関係を理解して、健康障害のリスクを管理する知識と技術を理解し体得する。

具体的には、グループに分かれて下記の 6 つの課題（1 回の実習で 2 課題ずつ）を巡回して実習し、課題毎にレポートを作成する。

- ・ 環境気中の粉じんの測定
- ・ 呼吸用保護具の適切な選択と使用法
- ・ 環境中の騒音レベルの測定
- ・ 検知管の操作と測定
- ・ 有機溶剤ばく露による生物学的ばく露指標の測定
- ・ 食中毒の集団発生事例の健康危機管理

2. 到達目標

- 1) じん肺の原因となる粉じんの種類ならびに環境気中の粉じん濃度の測定法を説明できる。
- 2) 騒音性難聴の原因となる環境中の騒音レベルの定量的評価法を説明できる。
- 3) 職場環境中の有害化学物質の簡易測定法としての検知管を説明できる。
- 4) 生体ばく露評価法としての生物学的モニタリングの意義と測定法を説明できる。
- 5) 粉じん、有害ガス等を防護するための呼吸用保護具の適切な選択と使用法を説明できる。
- 6) 感染症を予防するための呼吸用保護具の適切な装着ができる。
- 7) 環境要因による健康危機管理の手法を説明できる。

3. 学習上の注意点

- 1) 各課題の実習前に別に配付する実習書の該当箇所を読んでおくこと。必要に応じて、事前に行われる「中毒・環境因子」および「医療と社会」シリーズ講義の内容を復習しておくこと。
- 2) 別に配付する「実習日程・グループローテーション」の表に従い、所定の実習場所に時間厳守で集合すること。
- 3) 各課題の実習後に、指導教員の指示に従ってレポートを作成し、所定の期日までに所定の場所に提出すること。

4. 教科書・参考書

教科書・参考書の指定はないが、実習時には別に配付する実習書を必ず持参すること。

5. 成績評価

評価項目	実施回数	評価割合	備考
レポート	6	100 (%)	各実習課題についてのレポートを全て提出することが単位修得に必須である。
授業態度		—	以下の場合に実習成績から減点する。 ① 実習態度に問題がある場合 ② レポート提出について、期日遅れやその他の不備がある場合
		100 (%)	

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
予防医学 (環境保健、 健康増進・ 疫学)	教授	高田 礼子	月曜日 12時30分～13時30分	医学部本館4階 予防医学教室	3425 (内線)
予防医学 (環境保健)	准教授	人見 敏明	水曜日 12時30分～13時30分	医学部本館4階 予防医学教室	3425 (内線)